

令和5年度
事業計画書

公益財団法人滋賀県希望が丘文化公園

令和5年度は、第4期指定管理期間6年間の5年目にあたり、今期以降の管理運営に向け確かな成果と実績を残すことが求められる重要な年である。

3年間にわたり新型コロナウイルス感染症の影響を受け施設の利用などの面で大幅な落ち込みがあったが、ようやく行動制限のないウィズコロナへの流れの中、これまでの成果や実績をいま一度十分に振り返りつつ、安心・安全の管理運営を進めるとともに、恵まれた公園の環境や資源を活かすべく、原点に立ち返った事業の見直しや新規事業に取り組み、県内はもとより全国に向けて希望が丘の魅力を発信していく。

経営面では、令和2年度以降、来園者数・施設利用者数・利用料金収入は当初計画から大きく落ち込んでいたが、ウィズコロナ、アフターコロナ時代に相応しい公園のあり方を検討しながら、『将来ビジョン』に掲げられた年間来園者数100万人以上の達成に向けて各指標の回復を図る。

また、特に「連携」の視点を重視し、これまで培ってきた様々な主体との連携を一層進めることはもとより、地域・市町や企業、団体、県内施設あるいは公園間での共同発信等に取り組んでいくとともに、県との連携においては、公園の活性化に向け積極的な意見交換等を進める。

事業面では、トップセールスなどプロモーションの活動を展開するとともに、新規事業として、春の希望が丘魅力発信事業「GWキッズわくわくランド」、秋の希望が丘魅力発信事業「Oh!タムキッズのびのびランド」、「希望が丘書道展」や「総合魅力発信事業」を推進する他、職員や外部からの提案も受け入れ事業見直しや新たな取組も検討していく。

従来の事業においても、子どもから高齢者までが昔遊びやレクリエーションなどを通して交流交歓が深められ、四季折々に公園を訪れるきっかけとなる“祭事業”、誰もが気軽に親しみ、楽しみながら健康づくりに取り組める“生涯スポーツの推進”、スポーツを楽しみ、仲間との交流を深めながら身体を鍛える“各種スポーツ大会”、野外活動や自然体験活動を通して、自然に触れ、自然を愛し、自然に学び豊かな人間性、創造性を育む“きぼっこ体験事業”などについて、実施方法面での創意工夫や改善を図り、事業参加者の増加あるいは満足度の向上につなげていく。

公園での国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会の開催に向けては、大規模なリニューアル工事が完了したスポーツ会館、陸上競技場や球技場について、積極的な広報を行うとともに、県と連携を図りながら財団挙げて大会の成功に向けた役割を遂行する。

〔希望が丘文化公園の運営〕

1 基本方針

(1) 自然と人との共生

希少植生物の保護や荒廃が進む森林の保全に的確に対応するなど、豊かな自然を保護、活用し、多くの来園者が自然の恵みを享受することによって、逞しい人間力と豊かな人間文化力を育む公園として、100年後も栄える滋賀のもりづくりに貢献する。

(2) 教育的機能の発揮

スポーツ、宿泊、野外活動、その他の施設を活用して、あらゆる年代の人々の共同宿泊活動や野外活動、スポーツ活動を促進し、これらの活動から得られる社会性や創造性など望ましい人間性を高めることにより、世代に応じた人間力と人間文化力の向上を図る公園として、100年後も栄える滋賀のひとつづくりに貢献する。

(3) ふれあい公園の創出

来園者の誰もが憩い、楽しみ、交流・交歓できる景観の創出や行事の実施など、“ふれあいの場”を提供することによって、家族が、友達が、知る人も知らない人もともに声をかけ、あいさつを交わし、笑顔が溢れる豊かな人間性を育てる公園として、100年後も栄える滋賀の活力づくりに貢献する。

(4) 納得の管理運営

公園設置51年の歴史を活かし、来園者はもとより公園設置者、公園管理者も自信と誇りの持てる納得の管理運営を確保し、大切な県民の財産として100年後も誇れる管理運営を

行う。

(5) 来園者を優しく見守る管理運営

公園設置51年の継続した管理運営の実績を活かして、常にお客様の立場に立った安全性や利便性を追求し、お客様の全てを優しく見守る公園として、管理運営を行う。

2 経営目標

(1) 管理運営目標

ア 自主財源率の目標

自主財源率：

令和3年度実績 20.6% → 令和4年度見込 26.4% → 令和5年度目標 31.2%

<実現策(新規・見直し)>

(ア)「希望が丘みらい基金」の制度を見直し、助成金・協賛金、広告料等の獲得により、教育・環境・自然および野外活動事業等の一連の取り組みが拡充できるよう、各種団体、企業、さらには事業参加者などへの協力・支援を積極的に働きかける。

<実現策>

(イ) 3月から9月末までの月曜日(祝日の場合はその翌日)は、すべて開園する。なお、10月から2月末までの月曜日は休園日とするが、利用の申し出があれば積極的に受け入れて部分開園の措置を講じる。

(ウ) スポーツゾーンでは、4月から9月末までの期間は営業時間を1時間延長し、午後6時までとする。なお、スポーツ施設は利用者の要望に応じ、午前7時からの利用にも対応する。さらに、照明設備を備えた屋内テニスコートおよび体育室は、最終午後9時まで利用時間の延長を行い、新規利用者層の開拓を図る。

(エ) 安心・安全を第一に考え「効率的かつ効果的な業務は外部に委ねる」ことを基本として、利用者サービスの向上とコスト削減を図る。併せて、職員の技術・経験を活かした直営修繕によって即応性を高め、経費削減を徹底的に行う。

(オ) 持続的な環境負荷低減活動を推進し、省資源化および省エネルギー化により、経費の削減を図るとともに、自然や環境に配慮した事業やサービスの提供に努める。

イ 施設の来園者数の目標

来園者数：

令和3年度実績 656,403人 → 令和4年度見込 740,000人 → 令和5年度目標 853,000人

<実現策(新規・見直し)>

(ア) 新規事業として、春の希望が丘魅力発信事業「GWキッズわくわくランド」、秋の希望が丘魅力発信事業「Oh!タムキッズのびのびランド」、「希望が丘書道展」や「総合魅力発信事業」を開催し文化ゾーンを中心に来園者増を図る。

(イ) 広報・営業活動の強化として、県内企業へのトップセールスや、県内外の学校団体、子ども会、スポーツ少年団への広報活動の拡大の他、びわ湖放送のCM放送や、スマートフォン対応ページを新設したホームページの内容充実やInstagramを追加したSNSの活用、イベントガイドやパンフレットの効果的な配布など、営業活動の強化策を講じる。

(ウ) 財団が実施しているフィールドアスレチック事業について、一層人・自然・文化とのふれあい、健康増進の場としていただくため、12月から2月の第3土曜日を「希望が丘フィールドアスレチックふれあいサタデー」として1日間無料開放し来園者増を図る。

<実現策>

(エ) 様々な体験コーナーを通して家族の絆や仲間との交流を深める場を提供する「新緑祭」「ふれあい祭」等の大規模な祭事業の開催により年間を通して公園の賑わいを創出する。

(オ) 3種類の植樹を行った桜の森をはじめとした多彩な花木で来園者の目を楽しませ、「憩いを感じる場」「自然を体験する場」としての機能を高め来園者増を図る。

- (カ) 様々な駐車料金の回数券(1万円：普通車500円券1冊30枚綴り・5千円：普通車500円券1冊13枚綴り・2千円：普通車500円券1冊5枚綴り)を販売し、利用者のニーズに応えるとともに、駐車料金の割安感をアピールすることで利用者サービス・利用拡大に向けた取り組みを行う。
- (キ) マイクロバス2台体制で園内3ゾーンの併用利用に対応した送迎サービスの充実を図り来園者増を図る。

ウ 施設の利用者数の目標

施設利用者数：

令和3年度実績 121,755人 → 令和4年度見込 200,000人 → 令和5年度目標 240,000人

<実現策(新規・見直し)>

- (ア) 地元滋賀のびわ湖放送で3ゾーン全ての魅力を伝えるCM放送を行い、新規の施設利用者の獲得に努める。

<実現策>

- (イ) 新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を継続し、安全で安心して利用できる施設を広く紹介する。

リニューアル工事が完了したスポーツゾーンでは、クッション性のある床とバスケットゴールが整備されたスポーツ会館、トラックが新調された4種L(ライト)公認陸上競技場や、人工芝化され散水システムを有する球技場などをPRする。

青年の城では、可能な範囲で宿泊や研修活動を分散して利用していただく。

キャンプ場においては、家族やグループで利用しやすい持込テントのスペースを整備し利用促進に努める。

- (ウ) 10月から2月末までの月曜日を休園日とするが、休園日前日の宿泊を希望される場合には、翌朝の退園まで柔軟な対応を行う。

- (エ) 4月から9月末までの期間はスポーツゾーンの営業時間を1時間延長し、午後6時までとする。

スポーツ施設については要望があれば午前7時からの早朝利用、さらに照明設備のある体育室、屋内テニスコートについては、最終午後9時まで夜間利用の延長にも対応する。

- (オ) 各種団体の利用目的に合った丁寧な活動プログラムの紹介を行い、園内施設の併用利用など有効活用の幅を拡大する取り組みを行う。

- (カ) 新規利用者の開拓やリピーターの確保のため、利用状況や社会情勢の分析を随時行い、効率・効果的な広報を行うとともに顧客満足度の一層の向上に努める。

- (キ) 園内通行やキャンプ場への車両の乗り入れ制限の緩和等により利便性の向上を図る。

また、多角的な視点から施設のバリアフリー化を推進し、障害者にも利用しやすい施設運営を行う。

なお、駐車料金は広大な希望が丘の芝生や樹木の保安全管理に役立てられていることを説明し理解を得る。

エ 事業参加者数の目標

事業参加者数：

令和3年度実績 45,742人 → 令和4年度見込 87,900人 → 令和5年度目標 92,300人

<実現策(新規・見直し)>

- (ア) 春と秋に新規に開催する希望が丘魅力発信事業「GWキッズわくわくランド」「Oh! タムキッズのびのびランド」では文化ゾーンを中心に各種団体と連携しながら多数の体験プログラムコーナーを設け、自然体験活動と交流・交歓の場を提供するとともに希望が丘の魅力を発信し、参加者増を図る。

- (イ) 県書道協会と連携して新規事業「希望が丘書道展」を実施し文化面の取り組みの強化を

図るとともに、新たな参加者の獲得を目指す。

- (ウ) 「総合魅力発信事業」として Instagram、Twitter を中心とした SNS と、スマートフォン対応ページを新設したホームページを活用し、自然豊かな公園の風景や事業の情報を迅速かつ広範囲に発信するとともに、公共団体や民間等のメディアを活用して公園の魅力発信し、フォロワー数の拡大に努める。また、地元 2 市 1 町で開催されるイベントや近隣の商業施設に出向き、体験コーナーを出展し公園や公園事業の PR に努め、事業参加者の拡大を図る。
- (エ) 野外活動の主要事業であるわんぱくキャンプとちびっこキャンプの定員を各 20 名拡大し、子どもたちが気軽に親しみやすく野外活動に参加できる機会を拡充する。
- (オ) 「もみじのつどい」「ビワイチプラス応援イベント」開催時にレンタサイクルを無料にし、事業参加者増を図る。

<実現策>

- (カ) 家族や仲間と楽しく交流できる場として、多くの県民の皆様には好評を博している「新緑祭」「ふれあい祭」等を開催し、子どもから高齢者まであらゆる年代が参加できる機会を充実させる。また、「交流ひろば(フリーマーケット)」を同時開催し、県民ニーズに応える。
- (キ) 受益者負担を原則とするが、できるだけ手頃な参加料金で県民ニーズの高い事業を企画するとともに、安全面や指導體制を万全に確保したうえで開催する。
- (ク) リニューアルされたスポーツ施設と自然豊かなフィールドを活かした大規模な大会型事業を開催し、公園を全国発信し集客に努める。

オ 施設利用者および事業参加者の満足度の目標

満足度：

令和 3 年度実績 97.1% → 令和 4 年度見込 90.0%以上 → 令和 5 年度目標 90.0%以上

<実現策(新規・見直し)>

- (ア) 「公園サポーター」の制度を見直すなど、多くの人々あるいは団体が公園を活用でき、意見やアイデアを提起でき、事業にも参画できる仕組みづくりを進める。

<実現策>

- (イ) 施設利用者の意見、要望を把握するため、「ご利用者の声」箱を設置する。また、来園者および事業参加者ならびに施設利用者へのアンケート実施のほか、対話による意見収集などを集計・分析して、公園の管理運営に活用する。
- (ウ) 利用者ニーズの把握や施設運営への反映の取り組みについては、公園運営推進協議会や公園利用者懇話会のメンバーに内容を公開し、意見を伺う。
- (エ) 来園者からいただいたすべての意見・要望や対応については、公園内運営会議で課題を共有し、対応方法および業務改善策を協議・決定する。
- (オ) 利用者トラブルの未然防止のため、日頃から目配り、気配りを心がける。苦情が発生した時は、迅速に誠意を持って、真意を理解し、納得いただけるまで丁寧に対応する。また、改善策を検討し、再発防止に努める。

(2) 施設管理運営上の目標(ポイント)

- ア 誰もが安心して利用できるよう、「マスクの着用」「手洗い・手指消毒」「3密回避」などを継続してお願いし、感染拡大防止と施設利用促進を両立させる。
- イ 県出資の公益法人として、すべての法令を遵守した法人運営と施設管理を行う。また、県の条例・規則等に準じた内部規程を設け、公正で開かれた業務運営を行う。
- ウ 県立の総合文化公園として、障害者・高齢者、青少年、妊婦・幼児等を含め、多世代での県民の誰もがスポーツ・健康づくりを推進する場として各種取り組みを行う。
- エ 安心してのびのびと過ごせる公園の魅力をもっと高め、県内外の方々の広大なフィールドを活かした交流・憩いの場としての役割に貢献する。

- オ 大自然の中で豊かな人間性を育み、自ら考え行動する力、仲間と共同して活動する力などを身に付ける学びの場としての役割を果たす。
- カ 利用者ニーズを把握するため、「ご利用者の声」箱の設置、利用者や参加者へのアンケートに加え、対話を通して来園者の生の声を取り入れる。また、意見・要望やアンケート結果は、業務改善や公園管理に速やかに活かしつつ、PDCAサイクルによるサービス水準の確保向上に努める。
- キ 環境負荷低減やCO₂・ゴミ排出量削減、環境教育等に努め、快適な公園づくりに取り組む。また、廃棄物「ゼロ」を目的とした、ゼロエミッションの考え方を森林整備に導入し、廃材や間伐材の活用に努める。
- ク 日常・定期的な安全点検に加え、利用シーズン前、豪雨、台風、降雪後等においては、より一層慎重な点検を実施する。また、利用者の安全確保・事故防止に万全を期すため、事故の未然防止に必要な工事や器具の備えなどを県に報告するとともに、職員の危機管理能力を向上させる。

(3) 事業実施上の目標（ポイント）

- ア 新型コロナウイルス感染症の収束は見込めない中、感染予防対策を万全に行い、無理の少ない事業日程、日帰り事業の拡充、親しみやすい事業発信などに留意して計画する。
- イ 子どもから高齢者までの世代をつなぎ、四季折々に公園を訪れるきっかけとなる「祭事業」などの開催により、広く県民に交流・憩いの場を提供する。
- ウ あらゆる年代の方々がスポーツに気軽に親しみ、楽しみながら健康づくりに役立つ取組やスポーツの楽しさを感じながら仲間との交流を深める大会など、スポーツ・健康づくりを推進する。
- エ 次代を担う子どもたちに「きぼっこ体験事業」を通じて、豊かな人間性、創造性を育む取組を拡充するほか、一人でも多くの子どもたちに自然体験活動を推進するとともに、楽しみながら自然を学ぶ場を提供する。
- オ 青少年宿泊研修所（青年の城）では社会性を養う機会や共同作業や体験学習を通じて、豊かな人間性や感性を育てる事業を展開する。
- カ 野外活動センター（キャンプ場）では、野外活動・キャンプ活動で心身を鍛え逞しく生きる力を養う事業や、仲間と自然に触れ合いながら創造性を豊かにする事業、SDGsを通じて持続可能な社会環境等について考える事業を展開する。
- キ 公園サポーターやキャンプリーダー等の人材育成と事業参画の機会を拡充する。
- ク 管理面、事業面ともに、職員から工夫・改善、新たな取組などの提案により有効なものは積極的に採用していく。

3 事業内容

別紙のとおり

令和5年度 事業内容

※ “きぼっこ体験事業”とは、希望が丘文化公園において次代を担う青少年の自然体験活動を推進する取り組みをいう。

番号	事業名	事業内容	開催予定日	参加費
1	春の希望が丘魅力発信事業 「GWキッズわくわくランド」	文化ゾーンを中心に多数の体験プログラムコーナーを設け、地元子どもたちの催し物など各種団体等と連携しながら、自然体験活動と交流・交歓を促進するとともに春の希望が丘の魅力発信する。キッチンカーの出店も行う。	4月 年間1回	500円以下
2	希望が丘新緑祭	新緑の時に、公園を訪れるきっかけとなるアトラクションを実施してにぎわいを創出し、当公園のPRを図るとともに認知度を高める。	5月 年間1回	500円以下
3	もみじのつどい	紅葉の時に、公園を訪れるきっかけとなるイベントを実施してにぎわいを創出し、当公園のPRを図るとともに認知度を高める。	11月 年間1回	500円以下
4	希望が丘ふれあい祭	さわやかな秋の季節に、公園を訪れるきっかけとなるアトラクションを実施してにぎわいを創出し、当公園のPRを図り認知度を高める。	11月 年間1回	500円以下
5	○共催事業 よさこいソーランの競演 in 希望が丘文化公園	よさこいのチームが各エリアをローテーションで演舞する。よさこいの醍醐味を演者も来園者も楽しんでいただく。	11月 年間1回	無料
6	たこあげのつどい	家族や仲間と風作りを通してものづくりの楽しさを味わい、同時に伝承遊びを楽しむ場を提供する。	1月 年間1回	500円以下
7	希望が丘スプリングフェスティバル	早春の時に、公園を訪れるきっかけとなるイベントを実施してにぎわいを創出し、当公園のPRを図るとともに認知度を高める。	3月 年間1回	500円以下
8	希望が丘秋まつり	秋を感じていただけるような出展コーナーを設置し、家族で秋を感じていただける機会を提供する。	9月・10月 年間1回	500円以下
9	秋の希望が丘魅力発信事業 「Oh! タムのびのびランド」	文化ゾーンを中心に多数の体験プログラムコーナーを設け、秋の希望が丘の魅力(全園)を発信する。キッチンカーの出店も行う。	10月 年間1回	500円以下
10	希望が丘交流ひろば	広大な敷地を活用し、家庭の不用品を対象としたフリーマーケットを開催して「エコ」気運と高い開催ニーズに応えるとともに、物産食事コーナーを開設するなどしてにぎわいと憩いの場を創出する。	5月・9月・10月・11月・3月 年間10回	7,500円以下
11	○共催事業 やまもりハブ▷希望が丘	公園の広大な敷地の中の文化ゾーンにおいて、関西在住の芸術家が集まり、散歩しながら芸術に出会える森を出現させ、文化的な要素を取り入れた自然体験の場を提供するとともに、当公園のPRを図り認知度を高める。	5月 年間1回	共催団体(モファ)が徴収
12	希望が丘書道展	公益社団法人滋賀県書道協会と連携し書道を通じて小中学生に自然や仲間とのふれあいの大切さを学んでいただく機会とする。	審査8月 展示8月～11月	無料
13	総合魅力発信事業	各種SNSやHPによる情報発信や、半期毎のイベントガイド作成、全園事業の発信、CM放送等による広報とともに、各種イベントに出展するなどして公園の認知度と親和度を高める。	通年	500円以下
14	公園サポーター募集	ボランティア活動に意欲のある人材を募集し、参画と協働を促進するとともに公園活性化を図る。	通年 活動随時	無料

番号	事業名	事業内容	開催予定日	参加費
15	希望が丘ハイキング (3回目のみ竜王町教育委員会と共催)	自然環境に恵まれた公園とその周辺地域を活用し、自然の中に身を置くことによる心身の健康増進の場を提供する。	4月・6月・10月・3月 年間4回	500円以下
16	希望が丘スポーツフェスティバル	気軽にいろいろなスポーツを体験できる機会を提供し、身体を動かす楽しさや普段の体力を考える機会とする。家族で参加出来るイベントも同時開催し、スポーツの秋を楽しんでいただく。	9月 年間1回	500円以下
17	希望が丘ランニングスクール2024	陸上競技場でランニングの基本を学ぶとともに、親子でスポーツを楽しむ場を提供する。	1月 年間1回	1,000円以下
18	希望が丘カップ2023 グラウンド・ゴルフ大会 ①月例大会 ②グラウンドチャンピオン大会	グラウンド・ゴルフを通して健康づくりや交流の場づくりの機会を提供する。	①4月～1月(年9回8月除く) ②3月(年1回)	1,000円以下
19	○共催事業 第36回滋賀県グラウンド・ゴルフ春季大会決勝大会兼 2023年度滋賀県民総スポーツの祭典 滋賀県スポーツ・レクリエーション大会 兼 関西マスターズスポーツフェスティバル2023	常設コースを使用して滋賀県グラウンド・ゴルフ協会と開催し、生涯スポーツの振興、健康づくり、仲間づくりの場を提供する。	6月 年間1回	共催団体(滋賀県グラウンド・ゴルフ協会)が徴収
20	○共催事業 第36回滋賀県グラウンド・ゴルフ秋季大会決勝大会 2023年度ねんりんピックびわこ・レイカディア県民大会	県内各地で予選を開催。決勝を常設コースを活かし、滋賀県グラウンド・ゴルフ協会と開催。生涯スポーツの振興、健康づくり、仲間づくりの場を提供する。	10月 年間1回	共催団体(滋賀県グラウンド・ゴルフ協会)が徴収
21	○共催事業 希望が丘トレイルランニングレース2023	広大かつ安全な園内環境を最大限活かし、健康の保持増進や自然の大切さを深める場を提供する。	4月 年間1回	共催団体(レース実行委員会)が徴収
22	滋賀県スポーツ少年団サッカー交流大会U-10 2023 in 希望が丘	滋賀県スポーツ少年団に登録している小学校4年生以下のチームを対象に8人制のサッカー大会を開催。スポーツを楽しむ、仲間との交流を深めることができる場を提供する。	6月 年間1回	5,000円以下
23	○共催事業 滋賀県高等学校駅伝競走大会(男女)	滋賀県高等学校体育連盟に加盟する学校の生徒が、近畿大会・全国大会の出場を目指して競いあう全県規模の大会。青少年の体力増進と健全育成を目的とする。	11月 年間1回	共催団体(滋賀県高体連)が徴収
24	○共催事業 びわ湖駅伝スポーツフェスティバル2023	広大かつ安全な園内環境を活かし、全国の市民ランナーやジョギング愛好者にも門戸を開いて、駅伝を楽しみ、健康の保持増進や交流を深める場を提供する。	11月 年間1回	共催団体(滋賀県スポーツ協会)が徴収
25	○共催事業 滋賀県中学生ベースボールフェスティバル 2023	中学生を対象に野球に関するイベントを実施し、日頃の練習の成果とベースボールの素晴らしさを再発見する機会とする。さらにイベントで出会った仲間たちと交流を深め、心も体も健やかに成長することを目的とする。	12月 年間1回	2,000円以下
26	BIWAKOクロカン2024 ・第35回 全日本びわ湖クロスカントリー大会 ・第9回全国中学生クロスカントリー選手権大会	広大かつ安全な園内環境を活かし、全国から集った選手による大会を開催し、中・長距離選手の強化・育成・発掘をおこなうとともに、相互の交流を深める場を提供する。	2月 年間1回	共催団体(京都新聞滋賀本社)が徴収
27	全国の仲間と深めよう 競いあおう 第13回びわ湖カップ なでしこサッカー大会 (U-12)	広大な芝生ランドを活かし、全国9地域から選ばれた少女サッカーチームによる大会を開催し、スポーツを楽しむ、仲間と交流を深める場を提供する。	2月 年間1回	15,000円以下
28	○共催事業 滋賀県スポーツ少年団ラグビーフットボール大会	滋賀県内のラグビーの普及・競技力向上と、ラグビーを通じて小学生年代の心身の健全な育成に寄与する。	3月 年間1回	共催団体(滋賀県ラグビー協会)が徴収
29	○共催事業 第17回ストックウォーキング	野洲市スポーツ推進委員協議会との共催事業。野洲市スポーツ推進委員が中心となり、公園および近江富士花緑公園内で実施。ストックを使ったウォーキングにより、効果的な健康づくりの推進を図る。	11月 年間1回	共催団体(協議会)が徴収
30	○共催事業 スポーツイベント「ほほえみスポーツ鬼ごっこ」	老若男女が誰もが気軽に取り組み、スポーツをすることで得ることができる喜びを、多くの方に感じてもらうことを目的に実施する。	3月 年間1回	共催団体(NPO)が徴収
31	ビワイチプラス応援イベント	滋賀県観光交流局ビワイチ推進室と協力し、来園者にサイクリングの楽しさ、ビワイチの魅力を伝える。	5月・10月 年間2回	無料
32	○共催事業 レッツ・エンジョイ・ウォーキング	竜王町教育委員会、竜王町スポーツ推進委員会との共催事業。竜王町スポーツ推進委員が中心となり、公園内でウォーキングを実施。生活習慣病の予防や健康づくりの推進を図る。	11月 年間1回	共催団体(竜王町教育委員会)が徴収

スポーツ健康づくりの推進

番号		事業名	事業内容	開催予定日	参加費
33	社会教育・生涯学習の支援	希望が丘アウトドアスクール	県内中・高等学校・大学・専門学校等と連携し、勤労体験やインターンシップを受け入れるとともに、学校や各種団体への体験活動指導を実践する。また、自然の中での遊びや自然体験プログラムを通して公園内外に係わらず、野外活動や自然体験の指導を行う。	通年	10,000円以下
34		クラフト&フィールドゲーム事業	園内各ゾーンにおいて、来園者・利用者のニーズに応じて、各種体験プログラムを提供する。	通年	1,000円以下
35	自然を体験し楽しみながら学ぶ場／宿泊体験・自然学習	“きぼっこ体験事業” ちびっこファミリー自然とあそぼう	家庭や地域において、子どもが人や自然と直接ふれあう経験が少なくなっている今日、自然や生きもの等への関心が芽生える年齢期の子どもとその家族を対象に、自然や美しいものに感動する心や子ども同士の交流を通して思いやりの心を育む機会を提供する。	5月・6月・9月 10月・12月 年間5回	500円以下
36		“きぼっこ体験事業” 希望が丘里山楽校	異年齢の子どもたちが共同生活・体験を通して、自主性・協調性を身に付けるとともに、自然とのふれあいや里山体験により、環境や生態系への気づきを得る場を提供する。	5月 年間1回	7,000円以下
37		“きぼっこ体験事業” 希望が丘夏休み自然塾	小学3年生から6年生の児童が、専門家の指導のもとで植物や生きもの調査研究を行い、自然や環境への理解を深める場を提供する。	7月 年間1回	25,000円以下
38		“きぼっこ体験事業” 希望が丘冬の里山楽校	冬の希望が丘で、異年齢の子どもたちが共同生活・体験を通して、自主性・協調性を身に付けるとともに、自然とのふれあいや里山体験により、環境や生態系への気づきを得る場を提供する。	12月 年間1回	7,000円以下
39		“きぼっこ体験事業” 希望が丘冬の林間スクール	冬の希望が丘で、子どもたちが生活体験や自然体験活動等を通して、自主性・協調性・社会性を身に付ける機会を提供する。	1月 年間1回	7,000円以下
40	自然学習	希望が丘自然観察会	季節に応じたテーマを設定し、公園内を散策しながら自然観察を行い、自然や生態系への興味・関心を高める場を提供する。	4月・7月・10月・12月・3月 年間5回	500円以下
41		希望が丘ディスクゴルフ大会2023	滋賀県フライングディスクゴルフ協会と協働し、広大な敷地と常設コースを活用して、広域から参加者を募る大会を開催する。	9月 年間1回	2,000円以下
42	スポーツ・健康・宿泊体験	○共催事業 第25回日本オープンディスクゴルフトーナメント	日本ディスクゴルフ協会等と連携し、スポーツゾーンの広大なフィールドを活かしてプロ・アマチュアのトーナメント大会を開催し、競技普及と選手育成、生涯スポーツの振興を図る。	7月 年間1回	共催団体(日本ディスクゴルフ協会)が徴収
43		○共催事業 第55回 滋賀県スポーツ少年大会	滋賀県スポーツ協会等と連携し、滋賀県下のスポーツ少年団員を対象に、スポーツ・文化学習・交流交歓等の活動や集団生活を通して心と身体を育て、団活動の活性化を図る。	8月 年間1回	共催団体(滋賀県スポーツ協会)が徴収
44		○共催事業 滋賀県スポーツ少年団 ジュニア・リーダースクール	滋賀県スポーツ協会等と連携し、地域のスポーツ少年団活動でリーダー的な役割を担える人材の育成と将来へ向けた指導者育成を図る。	12月 年間1回	共催団体(滋賀県スポーツ協会)が徴収

番号	事業名	事業内容	開催予定日	参加費
45	“きぼっこ体験事業” 希望が丘アウトドアキッズキャンプ	小学生の学年層(1～3年生)に応じたキャンププログラムにより、子どもたちの自然や野外活動への興味・関心を高め、自主性、協調性を身に付けることを目的とする。	6月 年間1回	10,000円以下
46	“きぼっこ体験事業” 希望が丘夏休みわんぱくキャンプ	異年齢の子どもたちが、希望が丘の自然の中で2泊3日のキャンプを通して自主性・協調性を身に付けるとともに、克服体験や達成感によってたくましく成長することを目的とする。(2泊3日 2回)	8月 年間1回	20,000円以下
47	“きぼっこ体験事業” 希望が丘ちびっこキャンプ	初心者でも安心して参加できるキャンプで、小学校低学年の児童を対象に、野外活動や共同生活を通して、自主性や協調性を身に付ける。	10月 年間1回	10,000円以下
48	“きぼっこ体験事業” 希望が丘わいわいクリスマスクッキング	自然の中でのクリスマスプログラムを提供し、自然や野外活動への興味・関心を高め、家族の絆を深める場を	12月 年間1回	2,000円以下
49	“きぼっこ体験事業” 希望が丘春のプチキャンプ	家族で体験するデイキャンプを通して、自然探究や野外活動への興味・関心を高め、創造力を豊かにする機会を提供する。	3月 年間1回	2,000円以下
50	○共催事業 希望が丘ふれあいキャンプ ～病気の子どもたち・障がいのある子どもたちとともに～	NPO法人多幸等と協働し、病気や障がいを持つ子どもたちとその家族が楽しくキャンプを行えるように支援し、自然や野外活動への興味・関心を高め、絆を深めることができる場を提供する。	4月・9月 年間2回	共催団体(NPO法人多幸)が徴収
51	希望が丘キャンプリーダー体験説明会	新規希望者を対象にキャンプ場利用者の対応や事業企画立案・運営に関わる基礎的な説明会を開催し、登録、全体研修会につなげていく。	4月・5月 年間2回	1000円以下
52	希望が丘キャンプリーダー研修会	キャンプリーダー登録者を対象に、公園の基本計画、将来像、ビジョンミッション等に基づいて、目標や目的の達成の認識の上、野外活動や自然体験に関する知識・技術の研修を行い、スキルアップを図ることにより、公園運営の一翼を担う人材を育成する。	通年	2,000円以下
53	希望が丘ファミリーキャンプフェスタ	自然の中での野外活動を通して、日常では味わいにくい体験や感動を家族や仲間とわかちあえる場を提供する。	7月 年間1回	5,000円以下
54	○共催事業 キャンプ活動の力	滋賀県キャンプ協会と協働し、キャンプ活動を通してライフスタイルを見つめ直し、コミュニケーションの大切さや生きる力に必要なスキルを学ぶ場を提供する。	10月 年間1回	共催団体(滋賀県キャンプ協会)が徴収
55	○共催事業 キャンプインストラクター養成講習会	滋賀県キャンプ協会と協働し、日本キャンプ協会公認のインストラクター資格取得のための講習会を行い、キャンプ指導者の育成を図る。	11月 年間1回	共催団体(滋賀県キャンプ協会)が徴収
56	○共催事業 輝竜キャンプ	公益財団法人竜王町地域振興事業団と協働し、小学生を対象に、野外活動や共同生活を通して、自主性や協調性を身に付ける機会を提供する。	8月 年間1回	共催団体(公益財団法人竜王町地域振興事業団)が徴収
57	フィールドアスレチック事業	俵藤太百足退治をモチーフに設置されたロープと丸太との遊具で遊びながら体力と健康づくりをする。36ポイントの他に山城ジャングル(9ポイント)、幼児コース(11ポイント)を開設。幼児から大人までの幅広い人々に、自然の中での体力の向上や家族サービス、校外学習の場としての役割を担う。	令和5年4月～6年3月 (通年)	
58	グラウンド・ゴルフ事業	グラウンド・ゴルフ場は4コース32ホールで運営。自然豊かな公園の特性を生かし、子どもから高齢者まで誰でも楽しめる生涯スポーツの活性化の一翼を担うとともに、県民の健康増進を図るため実施する。	令和5年4月～6年3月 (通年)	
後援事業	第31回全国中学校駅伝大会	中学校教育の一環としてわが国特有の駅伝文化を継承する機会を広く与え、心身ともに健康な中学校生徒を育成するとともに、中学校生徒の相互の親睦を図る。	12月 年間1回	後援団体(日本陸上競技連盟)が徴収